

新潟脳神経研究会特別例会の御案内

今回は、西澤正豊教授の最終講演会といたしますので、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：平成28年3月29日（火）18:00～

場所：脳研究所 1F 検討会室

（座長：那波宏之 所長）

小脳性運動失調症の評価と治療

西澤 正豊 教授

新潟大学 脳研究所 神経内科学分野

20世紀初頭の Babinski による臨床観察と、Gordon Holmes による第一次大戦における外傷性小脳障害の記載から、古典的な小脳症候は確立された。しかし、現在も神経学の教科書に記載されている測定異常、運動分解、反復拮抗運動不能、時間測定障害、筋緊張低下、リバウンド現象などの症候は、いずれも小脳機能が障害された結果をみているに過ぎない。

MRI の導入以降、特に血管障害においては、ヒト小脳の病変は詳細に記載することができ、その症候と対比することが可能である。神経病理学はヒトの小脳変性症の病理学的所見を詳細に記載している。またラットやサルを対象としたものではあるが、小脳解剖学の詳細な知見も得られている。さらに、神経生理学の進歩は、小脳機能の本質が運動の適応制御と、その結果の学習にあることを明らかにしている。

しかしながら、臨床の場にはこれらの知見は未だ還元されていない。臨床的な小脳機能の評価法は、こうした新たな知見に基づいたものであるべきであり、また、小脳性運動失調症の治療薬を開発する臨床治験においても、小脳は何をしているのかに基づいた新たな評価法とアウトカムが設定されなければならない。小脳機能の新たな評価法の開発と、未だ不十分な治療法の開発の現状を紹介し、次世代の神経内科医が積極的に小脳研究に取り組むことを期待したい。

どうぞ奮ってご参加ください。

（担当：神経内科学分野）
新潟脳神経研究会幹事代表：那波宏之